

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
バイオサイエンス学部	バイオサイエンス学科	夜・通信	—	21.0	20.5	41.5	13.0	
	バイオサイエンス学科 臨床検査学カリキュラム	夜・通信			10.0	31.0	13.0	
	アニマルバイオサイエンス学科	夜・通信			17.0	38.0	13.0	
	コンピュータバイオサイエンス学科	夜・通信			17.0	38.0	13.0	
	フロンティアバイオサイエンス学科	夜・通信	—	28.0	17.0	45.0	13.0	
	フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学カリキュラム	夜・通信			12.0	40.0	13.0	
	メディカルバイオサイエンス学科	夜・通信			11.0	39.0	13.0	
	アニマルバイオサイエンス学科(*)	夜・通信			9.0	37.0	13.0	
(備考) 2019年度より学部再編で、フロンティアバイオサイエンス学科、メディカルバイオサイエンス学科、アニマルバイオサイエンス学科(*)の3学科編成になる。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学 HP <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/education/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/education/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
------

(困難である理由)
-----------

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学 HP により公表する。  
<https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/officer/>

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	農業大学校 校長	2020.12.19～ 2023.12.18	組織運営体制の チェック
非常勤	他大学の研究機構 研究顧問	2020.12.19～ 2023.12.18	組織運営体制の チェック
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>・作成時期：前年度 12 月から翌年 3 月</p> <p>前年度 12 月に科目担当教員にシラバスの執筆依頼を行う。依頼の際には執筆要領を添付し、科目概要と目標、授業計画、授業方法、授業外学習の指示、学生の到達目標、成績の評価方法と評価基準の提示、参考テキストなど、講義内容が学生に明確に伝わるシラバスを執筆するように指示している。また、カリキュラムポリシーに従い、カリキュラム全体の中での担当科目の位置づけや他科目との有機的なつながりもシラバスに明記してもらっている。</p> <p>2 月末までに、科目担当教員が執筆したシラバス原案が執筆要領に沿ったフォーマットであるかを教務担当部署および執筆者以外の教員でチェックする。シラバス内容が前年度から変更された箇所については執筆者に理由を提出して貰い、変更の妥当性を精査している。さらに 1 月から 3 月まで修正を繰り返し行い、学生にとって必要な情報を伝えられるシラバスになるように務めている。</p> <p>・公表時期：当該年 3 月下旬</p> <p>シラバスは、本学 HP に掲載して全在学生および学外へ、クラウド型の教育支援サービス manaba により全在学生へ周知している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学 HP で公開している。</p> <p><a href="https://slw.nagahama-i-bio.ac.jp/syllabus_nbio/">https://slw.nagahama-i-bio.ac.jp/syllabus_nbio/</a></p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>クラウド型の教育支援サービス manaba 等を導入し、個々の学生の出席状況などを定期的に調査しており、欠席が続く学生に対しては呼び出し指導を行っている。また学修成果を厳格かつ適正に行うため科目ごとにルーブリック評価を導入している。各科目で実施している定期試験、中間試験、レポート、口頭発表、実技、小テストや卒業研究で行う研究活動、卒業論文作成などはすべてルーブリックに記載されている項目ごとの到達度に照らし合わせて客観的な評価を行い、学修成果を点数化している。採点結果は S (90 点以上)、A (90 点未満 80 点以上)、B (80 点未満 70 点以上)、C (70 点未満 60 点以上)、D (60 点未満) の 5 段階で評価し、当該する評価を科目の成績としている。</p> <p>科目担当教員から提出された成績をもとに、教務委員会にて判定会議を行い、S から C の場合に単位を認定している。D は不合格である。その後、教務委員会において成績評価の分布や学生向け授業アンケートの結果などに照らし合わせて、各科目における成績評価が厳格かつ適正に行われているかどうかのチェックを行っている。評価の適正に疑問が生じた場合には担当教員のインタビューを行う場合もある。</p> <p>以上の方法により、単位授与を厳格かつ適正に行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>客観的な成績評価を行う指標として G P A 制度を導入している。科目ごとの成績評価を「S・A・B・C・D」の 5 段階評価 (S : 100 点法による 90 点以上、A : 80 点以上 90 点未満、B : 70 点以上 80 点未満、C : 60 点以上 70 点未満、D : 60 点未満 (不合格)) をもって表示する。「S・A・B・C」それぞれに対して「4・3・2・1」のグレードポイントをつけて、全履修科目の平均を算出する。「D」評価のグレードポイントは 0 となり、G P A 算出の際の総単位数に含まれる。</p> $\frac{(S \text{ の単位数} \times 4) + (A \text{ の単位数} \times 3) + (B \text{ の単位数} \times 2) + (C \text{ の単位数} \times 1)}{\text{「S・A・B・C・D」評価の総単位数}}$ <p>科目ごとの成績評価はシラバスに記載した方法・基準にしたがい実施している。シラバス、および G P A の算出方法は本学ホームページで公表している。また、前期・後期の各セメスターの成績の確定後、G P A を算出し、学年ごとの G P A 分布と平均値を学内に掲示し公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/education/grade-evaluation/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/education/grade-evaluation/</a></p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定に関する方針は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）」において定めている。スタディ・ガイドに掲載して学生に周知している。また、本学ホームページにも掲載して学外へも公表している。</p> <p>教務委員会にて協議の上、ディプロマポリシーに則って（１）定められた能力を修得していること、（２）各学科・カリキュラムで指定する必要単位を修得していること、（３）合計で128単位以上（2021年度以前入学の臨床検査学カリキュラムは130単位以上）を修得していること、の3点をすべて満たしたと認められる学生に対して卒業を認定し、学士（バイオサイエンス）の学位を授与している。なお3に記載したとおり、各科目の単位認定はルーブリックを利用して厳格かつ適正に行っている。また、大学における学修の集大成として4年次に実施する「卒業研究」と「文献調査・講読」についても他の科目と同様にルーブリックに定めた各項目の到達度を基準に客観的な評価および学修成果の点数化を行っている。</p> <p>以上の仕組みによって卒業認定の適切な実施に努めている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>本学 HP で公開している。  <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%95%99%e8%82%b2%e7%a0%94%e7%a9%b6%e4%b8%8a%e3%81%ae%e6%83%85%e5%a0%b1/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%95%99%e8%82%b2%e7%a0%94%e7%a9%b6%e4%b8%8a%e3%81%ae%e6%83%85%e5%a0%b1/</a></p>

## 様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/</a>
財産目録	<a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/</a>
事業報告書	<a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/</a>

### 2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:長浜バイオ大学事業計画書 対象年度:2022年度)
公表方法:大学HPで公開する。 <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%b3%95%e4%ba%ba%e3%83%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%83%bb%e8%b2%a1%e5%8b%99%e6%a6%82%e8%a6%81/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%b3%95%e4%ba%ba%e3%83%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%83%bb%e8%b2%a1%e5%8b%99%e6%a6%82%e8%a6%81/</a>
中長期計画(名称:長浜バイオ大学第5次中期事業計画書 対象年度:2020年度~2024年度)
公表方法:大学HPで公開する。 <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%b3%95%e4%ba%ba%e3%83%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%83%bb%e8%b2%a1%e5%8b%99%e6%a6%82%e8%a6%81/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/%e6%b3%95%e4%ba%ba%e3%83%bb%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%83%bb%e8%b2%a1%e5%8b%99%e6%a6%82%e8%a6%81/</a>

### 3. 教育活動に係る情報

#### (1) 自己点検・評価の結果

公表方法:本学HPで公開する。 <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/自己点検・評価報告書/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/自己点検・評価報告書/</a>
--

#### (2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:本学HPで公開する。 <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/自己点検・評価報告書/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/corporations/自己点検・評価報告書/</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 バイオサイエンス学部
教育研究上の目的 (公表方法：学内 HP <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/</a> )
(概要) 本学は、前身である京都人文学園から受け継いだ、「平和とヒューマニズムを何よりも尊び、豊かな人間性と科学的合理性を兼ね備えた『行動する思考人』の育成」を、教育理念としています。
<b>フロンティアバイオサイエンス学科</b> <b>【教育目的】</b> フロンティアバイオサイエンスとは、飛躍的に発展する生命科学分野の最先端を理解し、人々の生活の向上に寄与する学問です。本学科では、生物学、農学、理学、工学、医学などの幅広いバイオサイエンス領域を理解できるように、基礎から最先端までの知識と技術を段階的、総合的に学びます。さらに、近年大きなイノベーションが認められる人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のバイオサイエンス領域を切り開ける能力を獲得します。それにより、バイオサイエンスの知識と技術を介して食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、IT、データサイエンスなどの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。 この様な目標を達成するためにフロンティアバイオサイエンス学科では、最先端の生命科学を理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためのアクティブラーニングや e ラーニング、チュートリアル教育を活用した能動的な学習法や、最先端の人工知能やビッグデータなどを含む生物データサイエンスに対応するためのコンピュータ教育も積極的に取り入れています。さらに、フロンティアバイオサイエンス実習を 1 年次から行うことで、最先端のフロンティアバイオサイエンス研究を遂行する上で必要な基礎から専門までの知識と技術を身につけます。
<b>臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)2021 年度以前入学生</b> 臨床検査とは、患者さんから採取した血液や喀痰、尿、便、体液などの排出物および心電図や脳波検査などで得た科学的な数値や客観的な画像などの生体情報を健康診断や病気の診断、治療経過の判定などに役立てるものです。臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)では、バイオサイエンスに対する深い洞察力と生物データサイエンスの知識を基盤として、臨床検査に関する専門知識、技術を修得し、高い倫理観を有し、ますます高度化する医療を支え、チーム医療を実践しうる新しい時代に対応した臨床検査技師を育成することを教学の目的とします。 この様な目標を達成するため臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)では、臨床検査医学、臨床生理学、臨床化学、病理組織細胞学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学、医用工学、人工知能やビッグデータを含むデータサイエンスなどを理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためにアクティブラーニングや e ラーニングを活用した能動的な学習法を積極的に取り入れています。

## 臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)2022年度以降入学生

臨床検査学は、人の血液や尿、髄液など様々な検体から生化学検査、血液検査、免疫検査、輸血検査、病理細胞検査、微生物・感染症検査、遺伝子検査などにより科学的数値を得る検体検査学と、様々な機器や装置を直接身体に装着し、超音波検査、心電図検査、脳波検査、筋電図検査、MRI 検査等の生体検査学で主に成り立つ学問分野です。長浜バイオ大学の臨床検査学コースでは、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーの知識と技術を基盤として、基礎から先端までの臨床検査学に関する専門知識と技術を学ぶことで、サイエンスイノベーションにより大きく発展する臨床検査学分野を担っていける人材を育成することを教学の目標としています。このような目標を達成するため臨床検査学コースでは、従来の臨床検査技師養成プログラムとは異なり、幅広いバイオサイエンスの知識と技術を基礎から最先端まで学ぶと共に、臨床生理学、臨床化学、病理組織細胞学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学などの臨床検査学に特化した領域についても学びます。また、新時代の臨床検査学を見据えて、人工知能や全ゲノム解析、ゲノム編集技術などの最先端の知識と技術を学べる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためにアクティブラーニングやeラーニングを活用した能動的な学習法を積極的に取り入れています。

### メディカルバイオサイエンス学科

#### 【教育目的】

メディカルバイオサイエンスとは、現代の高度化・専門化した医療の分野に、創薬科学、生物工学、分子生物学、データサイエンスなどを介して貢献しうる学問領域です。本学科では、新しい進化を遂げようとしている現代の医療分野に、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として薬学的、生物工学的、分子生物学的、人工知能やビッグデータを活用したデータサイエンス的側面から支援しうる人材を育成することを教学の目標としています。

このような目標を達成するためメディカルバイオサイエンス学科では、最先端の医学に関連したこれらの学問領域を理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためのアクティブラーニングやeラーニング、チュートリアル教育を活用した能動的な学習法や、最先端の人工知能やビッグデータなどを含む生物データサイエンスに対応するためのコンピュータ教育も積極的に取り入れています。さらに、メディカルバイオサイエンス実習を1年次から行うことで、最先端のメディカルバイオサイエンス研究を遂行する上で必要な基礎から専門までの知識と技術を身につけます。

### アニマルバイオサイエンス学科

#### 【教育目的】

アニマルバイオサイエンスとは、動物の営みやその機能を分子や個体レベルで理解する学問です。本学科では、動物個体の生命現象を理解するために、アニマルバイオサイエンスに関する知識・技術とその応用能力、論理的・実践的思考能力を修得します。さらに、近年大きなイノベーションが認められる人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のアニマルバイオサイエンス領域を切り開ける能力を獲得します。それにより、食品、医薬、畜産、環境、などの産業に係わる企業、大学、国公立機関などでリーダーとして活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。

このような目標を達成するためアニマルバイオサイエンス学科では、最先端の動物科学を理解しうる質の高い講義を開講すると共に、自ら考える力や問題解決能力、表現力を身につけるためのアクティブラーニングやeラーニング、チュートリアル教育を活用した能動的な学習法や、最先端の人工知能やビッグデータなどを含む動物データサイエンスに対応するためのコンピュータ教育も積極的に取り入れています。さらに、

野外活動や実習を行うことで、アニマルバイオサイエンス研究を遂行する上で必要な基礎から専門までの知識と技術を身につけます。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/>)

(概要)

#### フロンティアバイオサイエンス学科

本学科では、生命科学領域の基本から実践に至る知識と技術を修得し、食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、ITなどの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。これらの教育目標のもとに開講された科目の履修とその教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下の様になります。

- 1) 広い教養とフロンティアバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 3) 生命への畏敬の念と倫理観を持つ。
- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース) 2021 年度以前入学生

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)では、バイオサイエンスに対する深い洞察力とデータサイエンス生物学の知識を基盤として、臨床検査に関する専門知識、技術、高い倫理観を有する、新しい時代に対応した臨床検査技師を育成することを教学の目的とします。これらの教育目標のもとに開講された科目を履修し、各科目の教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下の様になります。

- 1) 臨床検査技師国家資格を取得できる学力を身につけている。
- 2) 生物データサイエンスを含むバイオサイエンスに対する深い洞察力を有する。
- 3) チーム医療を理解し、他の医療職と円滑に連携して医療に貢献出来る能力を身につけている。
- 4) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 5) 生命への畏敬の念と倫理観に加え、病める人の気持ちに寄り添える感性を有している。
- 6) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 7) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース) 2022 年度以降入学生

臨床検査学コースでは、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーの知識と技術を基盤として、基礎から先端までの臨床検査学に関する専門知識と技術を学ぶことで、サイエンスイノベーションにより大きく発展する臨床検査学分野を担っていける人材を育成することを教学の目標としています。これらの教育目標のもとに開講された科目を履修し、各科目の教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1) 広い教養を持ち、バイオサイエンス、臨床検査学に関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。

- 3) 生命への畏敬の念と倫理観、地球環境への洞察力を持ち、臨床検査学を必要としている人に寄り添える感性を有している。
- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。

#### メディカルバイオサイエンス学科

メディカルバイオサイエンス学科では、基本から実践に至るメディカルバイオサイエンスの知識と技術を修得し、医薬品、医用機器、臨床分析、化学、IT、臨床検査などの産業に係わる企業、大学、病院、国公立機関などにおいて社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。これらの教育目標のもとに開講された科目の履修とその教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1) 広い教養とメディカルバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 3) 生命への畏敬の念と倫理観、地球環境への洞察力を持つ。
- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。

#### アニマルバイオサイエンス学科

アニマルバイオサイエンス学科では、アニマルバイオサイエンス領域の基本から実践に至る知識と技術を修得し、食品、医薬、畜産、愛玩動物、環境保全などの産業に係わる企業、大学、国公立機関などで社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。これらの教育目標のもとに開講された科目の履修とその教育目標を達成し、学科が規定する所定単位の取得をもって、学士の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

- 1) 広い教養とアニマルバイオサイエンスに関する専門知識・技術、データサイエンスに対する理解力を兼ね備え、社会のリーダーとして産業の振興および学術文化の発展に寄与できる。
- 2) 高度情報化社会に適応できる情報解析力と国際化に対応できる語学力を持つ。
- 3) 生命への畏敬の念と倫理観を持つ。
- 4) 主体的に学び、自ら課題を発見し、その解決法を導き出す思考力を持つ。
- 5) 他者と意思を疎通し、協力して物事にあたる行動力を持つ。

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/>)

(概要)

#### フロンティアバイオサイエンス学科

##### 【カリキュラムポリシー】

フロンティアバイオサイエンス学科では、飛躍的に発展する生命科学の最先端を理解し、人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のバイオサイエンス領域を切り開ける人材の育成を教学の目標に据えています。本学科では、この様な教学目標を達成するために、基礎から最先端までのバイオ科学の知識と技術を段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。

また、ビジネス講座や就職支援講座、学生が得たバイオ科学の知識を地域社会で役立てる講座も配置することで、社会で即戦力として活躍できる人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門

教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。

フロンティアバイオサイエンス学科における教育目標を達成するために、食品、エネルギー、環境保全、分析化学、化学工業、バイオ、医療、IT、データサイエンスというキーワードを中心におき、以下のようなカリキュラムを設置しています。

＜学部共通科目＞として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」を必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I, II」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要な不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, II」、「応用実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

＜専門科目＞としてフロンティアバイオサイエンス学科の特性に沿い、食農科学系、生命工学系、生命情報系の専門性の高い科目群を配置するとともに、「専門実験 I, II」や「生命情報科学専門実習 I」を必修で配置し、4年次の卒業研究へ向けた知識や技術の修得を促す。4年次では集大成としての「卒業研究」を必修として配置し、実社会で活躍するために必要な能力を養う。

#### 臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)2021年度以前入学生

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)では、バイオサイエンスに対する深い洞察力と生物データサイエンスの知識を基盤として、臨床検査に関する専門知識、技術、高い倫理観を有する、新しい時代に対応した臨床検査技師を育成することを教学の目的とします。この様な教学の目標を達成するために、高いバイオサイエンスの基礎と専門知識、データサイエンスを修得する科目に加え、臨床検査技師になるために必要な病理学、血液学、免疫学、生理学、組織・解剖学、微生物学などの臨床系科目や医療人としての倫理観を養うための科目を配置しています。

また、様々な実習や各種ビジネス講座を配置することで、新時代の臨床検査技師として活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)における教育目標を達成するために、以下のようなカリキュラムを設置しています。

＜学部共通科目＞として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」を必修で配置する。

- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法Ⅰ」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学Ⅰ」、「エッセンシャル化学Ⅰ」、「エッセンシャル生化学Ⅰ,Ⅱ」、「エッセンシャル生物学Ⅰ,Ⅱ」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験Ⅰ,Ⅱ」、「コンピュータ基礎実習」、「コンピュータ応用実習」、「応用実験Ⅰ」を必修で配置する。

<専門科目>として臨床検査技師になるために必要な専門科目群とあわせて実習科目群を必修で配置し、資格取得へ向けた知識や技術の修得を促す。4年次では「臨地実習」と「卒業研究」を必修として配置し、さらに臨床検査技師国家試験に向けた特別教育を行う。

#### 臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース)2022年度以降入学生

臨床検査学コースでは、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーの知識と技術を基盤として、基礎から先端までの臨床検査学に関する専門知識と技術を学ぶことで、サイエンスイノベーションにより大きく発展する臨床検査学分野を担っていける人材を育成することを教学の目標としています。このような教学の目標を達成するため、臨床検査学コースでは、基礎的および応用的なバイオサイエンスから最先端の臨床検査学までを段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。

また、一般教養講座や各種ビジネス講座、英語教育講座も1年次生から配置することで、有能な社会人として社会で活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。臨床検査技師の免許取得のためには臨床検査技師国家試験を受験して合格することが必要です。臨床検査学コースでは、臨床検査技師の国家試験受験資格に必要な臨床生理学、臨床生理学実習、臨床微生物学実習、病理学、臨床検査特論、臨地実習などの臨床検査学関連の専門科目を2年次生から重点的に配置しています。臨床検査学コースに入学した学生は、臨床検査学関連科目を修得することで、新時代に対応した臨床検査学の知識と技術を持ち、高い倫理性を持った臨床検査技師として社会で活躍することが可能となります。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語Ⅰ,Ⅱ」と2年次の「科学英語Ⅰ,Ⅱ」を必修で配置し、3年次においても「科学英語Ⅲ,Ⅳ」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」を必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法Ⅰ,Ⅱ」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学Ⅰ」、「エッセンシャル化学Ⅰ」、「エッセンシャル生化学Ⅰ,Ⅱ」、「エッセンシャル生物学Ⅰ,Ⅱ」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験Ⅰ,Ⅱ」、「応用実験Ⅰ,Ⅱ」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>として臨床検査学に特化した科目を配置する。

- 1) 1 年次には医学と臨床検査学全般を俯瞰できるように「医学概論」を選択科目で配置する。
- 2) 2 年次には臨床検査学の基礎を学ぶため「動物生理学」、「栄養学」、「解剖組織学」、「免疫学」、「臨床免疫学」、「臨床化学」、「臨床血液学」、「臨床微生物学」、「一般検査学」、「解剖組織学演習」、「医療安全学演習」、「臨床生理学 I」、「医用工学演習」を選択科目で配置する。
- 3) 3 年次には基礎科目を相互に連携させ、病態を理解するため「臨床病態学」、「輸血・移植検査学」、「薬理学」、「検査総管理学」「病理組織解剖学」、「病原ウイルス学」、「病理学」、「公衆衛生学」、「臨床生理学 II」、「医療情報学概論」、「臨地実習前技能演習」を選択科目で配置する。さらに、実践技術を修得するために「臨床化学実習」、「免疫検査学実習」、「臨床微生物学実習」、「病理学実習」、「臨床生理学実習」を必修科目で配置する。
- 4) 4 年次には「卒業研究」を必修科目として配置し、実社会で活躍するための必要な能力を養う。加えて、臨床検査技師免許取得を目指す学生には「臨地実習」、「臨床検査特論」を選択科目で配置する。「臨地実習」では一定レベルの知識や技術を身につけていることが前提となるため、3 年次終了までの臨地実習履修登録要件科目を全て修得していることが必要となる。また、「臨床検査特論」では国家試験該当科目を中心に総合的学習を実施する。

## メディカルバイオサイエンス学科

### 【カリキュラムポリシー】

メディカルバイオサイエンス学科では、幅広いバイオサイエンスとバイオテクノロジーを基盤として創薬科学、生物工学、分子生物学を理解し、人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代のメディカルバイオサイエンス領域を切り開ける人材を育成することを教学の目標にしています。この様な教学の目標を達成するために、本学科では、基礎的なバイオ科学から最先端のバイオメディカル科学までを段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。

また、様々な実習や各種ビジネス講座を配置することで、社会で活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。

メディカルバイオサイエンス学科における教育目標を達成するために、医療科学、創薬化学、医療データサイエンスというキーワードを中心におき、以下のようなカリキュラムを設置しています。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1 年次の「一般英語 I, II」と 2 年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3 年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために 1 年次に「サイエンスイノベーション入門」を必修で配置する。
- 3) 1 年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I, II」を必修で配置し、その後 3 年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, II」、「応用実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>としてメディカルバイオサイエンス学科の特性に沿い、医療科学系、創薬科学系、医療情報系の専門性の高い科目群を配置するとともに、「専門実験 I, II」や「インシリコ創薬基礎実習」を必修で配置し、4年次の卒業研究へ向けた知識や技術の修得を促す。4年次では集大成としての「卒業研究」を必修として配置し、実社会で活躍するために必要な能力を養う。

## アニマルバイオサイエンス学科

### 【カリキュラムポリシー】

アニマルバイオサイエンス学科では、動物個体の生命現象を深く学ぶとともに、人工知能やビッグデータなどを含むデータサイエンスについても積極的に学ぶことで新しい時代の食品、医薬、畜産、愛玩動物、環境保全などの分野で活躍できる人材の育成を教学の目標に据えています。このような教学の目標を達成するために、本学科では、基礎的なバイオ科学から最先端のアニマル科学までを段階的、総合的に学べるように各講座を配置しています。また、世界有数の古代湖・琵琶湖などにおける生態・環境・野外での実習や各種ビジネス講座を配置することで、社会で活躍できる有能な人材の育成を担保しています。さらに、授業外での学びをサポートする専門教員や、実験実習をサポートする専門教員を配置することで、効率的かつ高いレベルでの知識と技術の修得を保証しています。

アニマルバイオサイエンス学科における教育目標を達成するために、動物、食品、畜産、愛玩動物、環境、医薬、動物データサイエンスというキーワードを中心に置き、以下のようなカリキュラムを設置しています。

<学部共通科目>として以下の方針でバイオサイエンスの系統的な履修を促します。

- 1) 生命科学の知識を国際的レベルで身につけるために、1年次の「一般英語 I, II」と2年次の「科学英語 I, II」を必修で配置し、3年次においても「科学英語 III, IV」を配置することで、継続的な学修を促す。
- 2) 広い視野を身につけるための教養科目を配置するとともに、データサイエンスの基礎を理解するために1年次に「サイエンスイノベーション入門」を必修で配置する。
- 3) 1年次にキャリア科目である「大学での学びと実践方法 I, II」を必修で配置し、その後3年次まで切れ目なくキャリア科目を配置して、学生自身のキャリアデザインを促す。
- 4) バイオサイエンスに必要な不可欠な基礎知識の修得を目的として、「数理科学 I」、「エッセンシャル化学 I」、「エッセンシャル生化学 I, II」、「エッセンシャル生物学 I, II」などの科目を必修として配置する。
- 5) バイオサイエンスの多様な実験技術を身につけるために、「自然科学基礎実験 I, III」、「応用実験 I, II」、「コンピュータ応用実習」を必修で配置する。

<専門科目>としてアニマルバイオサイエンス学科の特性に沿い、動物科学や食品衛生関連の専門性の高い科目群を配置する。特に「湖北動物プロジェクト」では自然豊かな琵琶湖の湖岸に位置する本学の環境を生かし、琵琶湖周辺地域の課題を解決するため、座学、野外活動、地域貢献を統合した実践的な科目を提供する。さらに「専門実験 I, II」を必修で配置し、4年次の卒業研究へ向けた知識や技術の修得を促す。また、学生の進路に応じて食品・実験動物か生物多様性に関する科目のいずれかを選択して専門知識の修得を促す。4年次では集大成としての「卒業研究」を必修として配置し、実社会で活躍するために必要な能力を養う。

## 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/> )

(概要)

### フロンティアバイオサイエンス学科

生物の機能や営みに関心を持っており、フロンティアバイオサイエンスを学び、バイオサイエンスを始めとする様々な分野で社会の役に立ちたいという意欲を持つ、次のような人を求めます。

- 1) フロンティアバイオサイエンスを学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、他者とコミュニケーションが取れる。
- 3) 向上心を持って勉学に取り組むことができる。
- 4) フロンティアバイオサイエンスの知識を持って、社会の様々な分野での活躍を望む。

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース) 2021年度以前入学生

新しく時代の先端医療にも対応できる有能な臨床検査技師として社会の役に立ちたいという意欲を持つ次のような人を求めます。

- 1) 臨床検査学を学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、高度化する医療を支える医療人として活躍することが出来る。
- 3) 弱者に心配り気配りが出来、他者とコミュニケーションが取れる。
- 4) 医学・医療に興味があり、向上心を持って勉学に取り組むことができる。

臨床検査学カリキュラム(臨床検査学コース) 2022年度以降入学生

サイエンスイノベーション時代を迎え、大きく発展する臨床検査学に知的関心を持ち、将来は臨床検査学に係わる病院、大学、国公立機関、企業などで臨床検査技師や研究者、教育者、技術者などとして社会の役に立ちたいという意欲を持つ次のような人を求めます。

- 1) 臨床検査学を学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 新しい時代において発展する臨床検査学分野で活躍したいとの意欲を持つ。
- 3) 論理的な思考力を持ち、弱者に心配りが出来、他者とのコミュニケーションが取れる。
- 4) バイオサイエンスを基盤とした臨床検査学に興味があり、向上心を持って勉学に取り組むことができる。

### メディカルバイオサイエンス学科

現代の医療や医療に貢献しうる研究分野に知的関心を持っており、メディカルバイオサイエンスを学び、製薬、医用機器、臨床分析、化学、医療データサイエンスなどの産業に係わる企業、大学、病院、国公立機関などで社会の役に立ちたいという意欲を持つ、次のような人を求めます。

- 1) メディカルバイオサイエンスを学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、他者とコミュニケーションが取れる。
- 3) 向上心を持って勉学に取り組むことができる。
- 4) メディカルバイオサイエンスの知識を持って、社会の様々な分野での活躍を望む。

### アニマルバイオサイエンス学科

動物の機能や営みに関心を持っており、アニマルバイオ科学を学び、新しい時代の食品、医薬、畜産、愛玩動物、環境保全などの分野で社会の役に立ちたいという意欲を持つ、次のような人を求めます。

- 1) アニマルバイオサイエンスを学ぶ上で必要な基礎学力を持つ。
- 2) 物事を論理的に考え、他者とコミュニケーションが取れる。
- 3) 向上心を持って勉学に取り組むことができる。

4) アニマルバイオサイエンスの知識を持って、社会の様々な分野での活躍を望む。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：・本学 HP URL：<https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/introduction/>  
・大学案内

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
	—	26人	15人	2人	12人	10人	65人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		56人					56人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：本学 HP <a href="https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/research/">https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/research/</a>						
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ F Dに関する記録および報告書等の作成に関すること 大学の学園通信「めいこう」に活動報告を記載</li> <li>・ 大学が取り組む教育改善に関する講演会、シンポジウム等の支援に関すること 大学内情報システム「デスクネッツ」に講演会、シンポジウム等の情報提供</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 関西地区 F D 連絡協議会に加盟して、他大学等の F D 関連セミナーの開催情報の提供を受け、全教職員の参加促進を図っている。参加者にはセミナー報告書と参加時の資料の提出を義務付け、報告書と資料を本学図書情報センターの閲覧コーナーに展示し、教職員の閲覧に供している。</li> <li>(2) 他大学等の F D の取り組みの中で、本学の教学改善に参考とすべきものについては外部講師を招聘し、講演会形式による学部ならびに大学院 F D 研修会を開催する機会を設け、講演内容を F D 委員会ならびに教学関連委員会において議論し、次年度以降の教学改善に繋げる方策を取っている。</li> <li>(3) 研修会の内容等を参加教員だけでなく全教員が共有するために、研修会報告・感想、研修内容の活用例等を学内 W E B 上に公開する。</li> </ol> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「manaba、Teams、私の使い方」2021年7月6日 (講師 長浜バイオ大学 高橋敏宏准教授 教員55名参加 ほかに後日動画視聴8名)</li> <li>② 「コロナ禍におけるメディアを利用した授業、学会、会議等における教材作成法」2021年9月9日 (講師 大阪大学 権藤千恵特任研究員 教員30名参加 ほかに後日動画視聴3名)</li> <li>③ 「データサイエンス教育の展望～あらゆる学問・あらゆる産業への展開を目指して～」2021年9月15日 (講師 お茶の水女子大学 伊藤 貴之 分離融合 AI・データサイエンスセンター長 教職員6名参加)</li> </ol> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>上記の F D 研修会を経て第 1 回の研修会では、現在、教員に望まれている manaba、Teams の使い方を詳しく解説していただき、教員の質向上に大きく貢献したと考えている。また、第 2 回の研修会では、大阪大学で随時行われている F D プログラムの一つを新たに導入し、メディア授業等で用いるビデオ教材を教員自ら作成ができるようになることを目指した F D を実施することができた。本学と比較して規模の大きい大阪大学では、様々な F D 研修が定期的に行われており、今回の件で、これらの F D 研修を本学に導入することが比較的容易に可能であることが明らかとなり、今後の F D 研修のレポートを増やすことに成功したと考えている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
バイオサイエンス 学部	238 人	161 人	67.6%	960 人	859 人	89.9%	4 人	0 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	238 人	161 人	67.6%	960 人	859 人	89.9%	4 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
バイオサイエンス 学部	252 人 (100%)	74 人 (29.4%)	151 人 (59.9%)	27 人 (10.7%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	252 人 (100%)	74 人 (29.4%)	151 人 (59.9%)	27 人 (10.7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 大学院進学では本学大学院進学者が約7割と最も多く、本学以外では国公立大学院等に進学する。就職先として食品、環境、化学、医療関連企業・団体が多い。				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
バイオサイエンス 学部	282 人 (100%)	242 人 (85.8%)	15 人 (5.3%)	24 人 (8.5%)	1 人 (0.4%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	282 人 (100%)	242 人 (85.8%)	15 人 (5.3%)	24 人 (8.5%)	1 人 (0.4%)
(備考)					

## ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

・作成時期：前年度12月から翌年3月

前年度12月に科目担当教員にシラバスの執筆依頼を行う。依頼の際には執筆要領を添付し、科目概要と目標、授業計画、授業方法、授業外学習の指示、学生の到達目標、成績の評価方法と評価基準の提示、参考テキストなど、講義内容が学生に明確に伝わるシラバスを執筆するように指示している。また、カリキュラムポリシーに従い、カリキュラム全体の中での担当科目の位置づけや他科目との有機的なつながりもシラバスに明記してもらっている。

2月末までに、科目担当教員が執筆したシラバス原案が執筆要領に沿ったフォーマットであるかを教務担当部署および執筆者以外の教員でチェックする。シラバス内容が前年度から変更された箇所については執筆者に理由を提出して貰い、変更の妥当性を精査している。

さらに1月から3月まで修正を繰り返し行い、学生にとって必要な情報を伝えられるシラバスになるように務めている。

・公表時期：当該年3月下旬

シラバスは、本学HPに掲載して全在学生および学外へ、クラウド型の教育支援サービスmanabaにより全在学生へ周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>学習の到達度を客観的に評価するためルーブリック評価、GPA 制度を導入している。卒業の認定方針として「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）」を策定し、このディプロマポリシーに定められた能力を獲得し、各学科・カリキュラムの所定単位を修得、かつ128単位以上（2021年度以前入学の臨床検査学カリキュラムは130単位以上）を修得したと判定した学生に、学士（バイオサイエンス）の学位を授与している。4年間の集大成として実施する「卒業研究」「文献調査・講読」には、成績評価基準が定められており、「卒業研究」「文献調査・講読」の修得をもってディプロマポリシーに定められた能力を獲得したと判断している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
バイオサイエンス 学部	バイオサイエンス 学科	128 単位	④・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以上の者は、各年次の履修登録可能単位数の上限を超えて1年間に50単位まで履修できる。)
	バイオサイエンス 学科 臨床検査学 カリキュラム	130 単位	④・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以上の者は、各年次の履修登録可能単位数の上限を超えて1年間に50単位まで履修できる。)
	アニマルバイオ サイエンス学科	128 単位	④・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以上の者は、各年次の履修登録可能単位数の上限を超えて1年間に50単位まで履修できる。)
	コンピュータ バイオサイエンス学科	128 単位	④・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以上の者は、各年次の履修登録可能単位数の上限を超えて1年間に50単位まで履修できる。)
	フロンティア バイオサイエンス学科	128 単位	④・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以上の者は、各年次の履修登録可能単位数の上限を超えて1年間に50単位まで履修できる。)
	フロンティア バイオサイエンス学科 臨床検査学カリキュラム (2022年度以降の 入学生)	128 単位	④・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以上の者は、各年次の履修登録可能単位数の上限を超えて1年間に50単位まで履修できる。)

フロンティア バイオサイエンス学科 臨床検査学カリキュラム (2021年度以前の 入学生)	130 単位	⑦・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以 上の者は、各年次の履 修登録可能単位数の 上限を超えて1年間 に50単位まで履修で きる。)
メディカル バイオサイエンス学科	128 単位	⑦・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以 上の者は、各年次の履 修登録可能単位数の 上限を超えて1年間 に50単位まで履修で きる。)
アニマルバイオ サイエンス学科 (*)	128 単位	⑦・無	1年間で48単位 (通算 GPA が 3.25 以 上の者は、各年次の履 修登録可能単位数の 上限を超えて1年間 に50単位まで履修で きる。)
G P Aの活用状況 (任意記載事項)	公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : 本学 HP で公開する。  
<https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
バイオサイエンス 学部 (2022年度 1回生)	フロンティアバイオサイエンス学科	950,000円	250,000円	420,000円	施設設備費、実験・実習費
	フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学コース	950,000円	250,000円	420,000円	施設設備費、実験・実習費
	メディカルバイオサイエンス学科	950,000円	250,000円	420,000円	施設設備費、実験・実習費
	アニマルバイオサイエンス学科	950,000円	250,000円	420,000円	施設設備費、実験・実習費
バイオサイエンス 学部 (2022年度 2回生・ 3回生・ 4回生)	フロンティアバイオサイエンス学科	1,030,000円	0円	480,000円	施設設備費、実験・実習費
	フロンティアバイオサイエンス学科 臨床検査学コース	1,030,000円	0円	508,000円	施設設備費、実験・実習費
	メディカルバイオサイエンス学科	1,030,000円	0円	480,000円	施設設備費、実験・実習費
	アニマルバイオサイエンス学科	1,030,000円	0円	480,000円	施設設備費、実験・実習費
バイオサイエンス 学部 (2022年度 5回生 以上)	バイオサイエンス学科	1,000,000円	0円	450,000円	施設設備費、実験・実習費
	アニマルバイオサイエンス学科	1,000,000円	0円	450,000円	施設設備費、実験・実習費
	コンピュータバイオサイエンス学科	1,000,000円	0円	450,000円	施設設備費、実験・実習費
バイオサイエンス 学部	全学科 休学者	0円	0円	10,000円	休学者在籍料 (但し、前期セメスターのみ休学は5,000円、後期セメスターのみ休学は5,000円)

## ⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

### a. 学生の修学に係る支援に関する取組

#### (概要)

各セメスターの開始前に履修ガイダンスを学年ごとに実施し、丁寧な修学指導を行っている。

学習支援に関しては、学習支援センターという部署に化学・生物・数学・物理・英語担当の教員を配置した学習相談窓口を設け、修学相談に来た学生に対して個別指導によるサポートをしている。また、優れた成績をあげている上級生を学習アドバイザーに任命して数学、化学、生物学、実験実習などの個別指導に協力して貰っている。教育学習支援システム「manaba」を利用して、講義資料や小テストを「manaba」上に公開し、学生自身が授業外で学習ができるようにしている。シラバスでは、全ての科目において「学生からの質問への対応方法」が指示されており、授業等で疑問点が生じた場合に、学生が教員に質問しやすい体制を構築している。また、実験実習では、大学院生による TA を配置して支援している。成績優秀者には、長浜バイオ大学学内奨学金等の奨学金制度があり、学生の勉学意欲の増進に貢献している。学生からの要望（例えば、図書室の開室時間、プリンター設置、Wi-Fi ネットワーク強化、貸出ノート PC、教科書を図書室に配置、学生の希望図書への対応、バイオコーポ・食堂の改善）は、授業アンケートあるいは卒業時のアンケートおよび保護者会からの意見を収集して、教育環境の改善を行っている。

また、新入生を対象とした「びあサポ（学生チューター制度）」を実施している。この制度は、新入生が戸惑う大学での学習や生活、進路選択などを、学生チューター（上級生）が自らの経験をもとにサポートしていくものである。新入生への意識調査からも「びあサポは大学生生活に役立っている」「先輩チューターに質問・相談がしやすい」とする意見が多数を占めており、「新入生同士の話のしやすさ」とも強く結びつくなど、びあサポが新入生の早期定着に大きく寄与していることが窺える。

### b. 進路選択に係る支援に関する取組

#### (概要)

進路選択を行うための就職支援は、就職活動そのものを学生が大きく成長する機会ととらえ、学生の自立を促し主体的な進路の選択や就職決定ができることを目指している。その実現のため就職支援の方針に基づき、新卒採用市場の変化に即応しながら支援を行っている。

具体的には、就職活動に取り組むすべての学生に的確な支援が出来るように、3 年次前期より学生が就職活動に必要な技能・情報の修得を目的とした「就活支援講座」を設置している。また企業と学生の接点を創出すべく、企業約 50 社が参加する合同企業説明会や就職活動期において個別学内企業説明会を適宜設置し、参加した学生が内定を獲得するなどの効果を得ている。本学の就職活動支援は研究室単位で配置されたキャリアセンター職員と教員がともに組織的に連携を取りながら行う「個別支援」を基本としており、職員との相談は回数・時間制限なくできる体制維持している。加えて、経験豊富な外部キャリアカウンセラー3 名が常駐しており、模擬面接や小論文添削等への対応や学生の多様な志向に応じた支援を可能としている。個別支援においては、個々のニーズや事情に応じてきめ細やかに対応しており、相談を通じて就労観の醸成や社会人としての成長を促すよう働きかけている。

2021 年度卒業生アンケートにおいて就職活動支援に関する満足度は 90.6%に達するなど、学生から高い評価を得ている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

入学時より全学生を対象に、毎年4月に定期健康診断を実施している。

医務室を設置し、学生のケガや急病に備えて対応している。

学生が修学を継続するための「こころ」のケアについて、開講期間中の週3日間学生相談室を開室し、カウンセラー(外部委託者2名/公認心理師、精神保健福祉士)により学生からの相談に対応している。2021年度は延べ285件の相談対応を行った。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学 HP <https://www.nagahama-i-bio.ac.jp/research/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F125310107333
学校名	長浜バイオ大学
設置者名	学校法人関西文理総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		94人	91人	98人
内 訳	第Ⅰ区分	58人	50人	
	第Ⅱ区分	23人	26人	
	第Ⅲ区分	13人	15人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				101人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。